

令和7年9月19日

岡山県古代吉備文化財センター	
担 当 者	総括副参事 松尾 佳子 副参事 和田 剛
電話番号	090-2530-3317 (調査担当) 086-293-3211 (センター)

新たに国指定史跡 備 中国分尼寺跡^{びつちゅうこくぶん に じ}の発掘調査で塔を発見！

岡山県古代吉備文化財センターでは「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴い、令和5年度から国指定史跡 備中国分尼寺跡（総社市上林ほか）の発掘調査を実施していますが、これまで詳細不明であった東方建物が塔であることが分かりました。新設された国分尼寺においては、全国初の例になります。

記

- 1 調査の目的 国指定史跡 備中国分尼寺跡の保存・活用
- 2 調査の対象 国指定史跡 備中国分尼寺跡
- 3 調査の主体 岡山県古代吉備文化財センター
- 4 調査の期間 令和7年6月1日～10月31日
- 5 調査予定の面積 500 m²
- 6 調査の成果 東方建物について
建物の種類 : 塔
年 代 : 平安時代中期（10世紀）
建物規模 : 一辺 6.3m
基壇規模 : 一辺 14m
- 7 調査の公開 現地説明会（9月27日）及び現地公開（9月29日～10月1日）
詳細は別紙参照

○添付写真をデータにて提供することができます。

1 調査の概要

国分尼寺は、天平13（741）年に聖武天皇の命を受け、国分寺とともに全国約60か所に建てられました。国分尼寺跡の約半数が所在地不明か推定にとどまる中、備中国分尼寺跡は金堂の礎石や寺域を囲む築地が良好な状態で残されており、その重要性から大正11（1922）年に国史跡に指定されました。令和5年度から岡山県古代吉備文化財センターでは「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴い、当該寺域内では初めての発掘調査を実施し、寺の主要な建物である南門・中門・金堂・講堂や、寺域を画する築地についての規模や構造の解明を進めてきました。

今年度（令和7年度）は、中門の東側に位置する東方建物を中心に発掘調査を実施しています。東方建物については、以前から一辺12m四方の土壇に、礎石と思われる石が1石露出していることから、塔、経蔵、鐘楼などの建物が存在するのではないかとされていましたが、詳細は不明でした。今回の発掘調査により東方建物が平安時代中期（10世紀）創建の塔であり、その規模（建物：一辺6.3m、基壇：方形一辺14m・残存高80cm）や構造にかかわる貴重な知見が得られました。

2 調査の意義

詳細不明であった東方建物が、平安時代中期創建の塔であり、規模や構造について多くの情報を得ることができました。

従来から国分尼寺については塔が存在しないとされており、既存寺院を転用した紀伊国分尼寺（西国分廃寺）（和歌山県岩出市）や土佐国分尼寺（比江廃寺）（高知県南国市）などは別にして、新設の国分尼寺に塔を建てた例は今まで確認されておらず、全国で備中国分尼寺が初例となります。ただし、奈良時代（8世紀中ごろ）に備中国分尼寺が創建された際に塔は存在しないと考えます。平安時代中期（10世紀）に新たに塔を建てた理由については、平安時代の思想的・歴史的背景を含めて今後検討する必要があります。

表1 平安時代までの現存建築（塔）

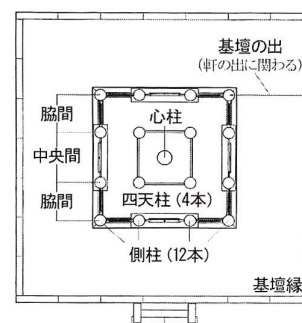
寺名		所在地	時期	建物一辺（m）	基壇一辺（m）	高さ（m）
法隆寺	五重塔	奈良県生駒郡斑鳩町	飛鳥時代	6.36	13.68	33
醍醐寺	五重塔	京都府京都市伏見区	平安時代	6.6	13.38	37.5
室生寺	五重塔	奈良県宇陀市	平安時代	2.43	5.55	16
法起寺	三重塔	奈良県生駒郡斑鳩町	奈良時代	6.36	11.55	24
薬師寺東塔	三重塔（裳階付）	奈良県奈良市西ノ京町	奈良時代	7.02	14.4	34
当麻寺東塔	三重塔	奈良県葛城市当麻	奈良時代	5.28	12.12	24
当麻寺西塔	三重塔	奈良県葛城市当麻	平安時代	5.19	10.77	24
一乗寺	三重塔	兵庫県加西市	平安時代	4.8	9	22
浄瑠璃寺	三重塔	京都府木津川市	平安時代	3.3	6.3	17

* 建物・基壇の長さについては、箱崎和久2013「七重塔の構造と意匠」『国分寺の創建 組織・技術編』吉川弘文館 表1を参考に、尺表記を1尺=0.3mとして、メートルに換算した。

【塔とは】

寺院内では金堂と同様、最も重要な建物です。インドにおいて仏教とともに発生した構築物で、釈迦の遺骨（舍利）を埋葬し供養するために営まれた象徴的な意味での「墓」とされ、礼拝の対象でもあります。

奈良時代に建立された国分寺では基本的に七重塔が建てられ、天皇の権威を象徴する建物として重要視されました。



第1図 塔の平面模式図
箱崎2013より引用

【用語説明】

きだん
基壇・・・建物の土台となる高まり

そせき
礎石・・・建物の柱の台となる石

しんそ
心礎・・・塔の中心に位置する柱（しんぼしら心柱）の土台となる礎石

なんもん
南門・・・寺院へ出入りする門

ちゅうもん
中門・・・金堂前の広場へ出入りする門

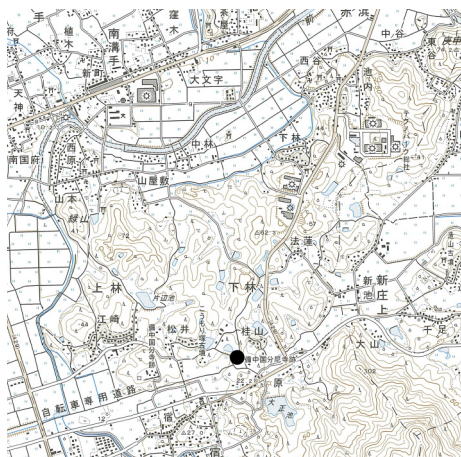
こんどう
金堂・・・ほんぞん本尊をまつた寺院の中心となる建物

こうどう
講堂・・・お経について教え、学ぶ建物

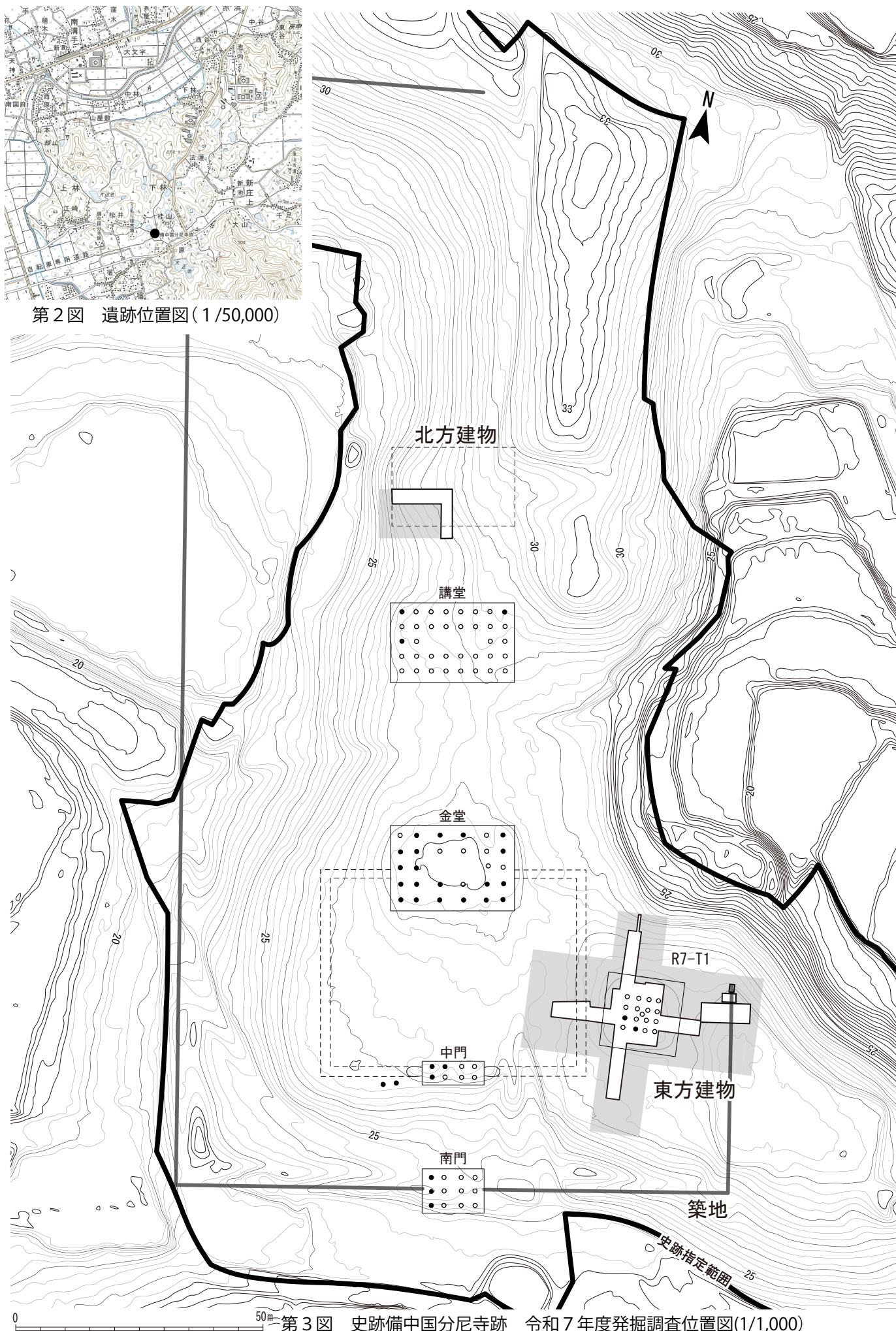
ついで
築地・・・寺の周りを囲むへい堀

きやうぞう
経蔵・・・経典や書物を収蔵する建物

しょうろう
鐘楼・・・鐘を吊り下げておくための建物



第2図 遺跡位置図(1/50,000)



第3図 史跡備中国分尼寺跡 令和7年度発掘調査位置図(1/1,000)



写真1 東方建物（塔）全景（南から）



写真2 東方建物（塔）心礎抜取穴 調査状況（南から）



写真3 東方建物（塔）礎石 15（南から）



写真4 東方建物（塔）基壇南端の調査状況（南東から）